

<p>学校教育ビジョン 「自ら考え、協働できる児童の育成」～自分も人も笑顔になれる学校をみんなでつくる～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す児童像 自分も人も笑顔になれるために 協働できる児童の育成 ・目指す教師像 児童のやる気高められる教師 ・基本方針 学校教育ビジョンの具現化に向け、①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③健やかな体の育成 の取組を組織的な学校運営及び家庭・地域との連携を通して行う。
--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(最終)	3学期に向けての改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人の基礎的な学力をつけるために組織的かつ継続的に推進できる体制づくりを通して、安定的な学力向上のシステムを確立する。	学方向上をめざした持続的な組織体制の強化のために、学校研究との連携を図りながら授業改善を進めるとともに、学力の定着度を図るための見取りをする。	授業づくり・学力向上部 教務主任	昨年度は基礎・基本の定着を図った。組織的・協働的に各部で取り組み、おおむね目標は達成できた。さらに子どもの力を伸ばすためにステップアップを図る。	【努力指標】 全教職員が授業改善に取り組むとともに、授業での学びを確かなものにする。	国語・社会・算数・理科における単元末テストの平均点が A 80%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。	B	学期末に行う「たしかめよう」の全学年平均は、国語86点・算数78点社会81点理科81点だった。算数の到達率のみが80%以下であった。各学年に算数の現状を聞いてみると、全学年までの学習の積み上げがないために、当該学年の学びが追いつかない児童が各クラス数名いる状態が分かった。そこで、個々の児童がどこでつまづいているのか把握し、授業中でのサポート・補充学習などの「個別の指導体制」を整えていく。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	子どもたちが毎日笑顔で生活できる学校を作る。	・全校を巻き込んだ児童会活動の充実を図る。 ・月に1度、教師が児童の良いところを見つけ掲示する「ほめほめweek」を実施し、児童を肯定的に見る取組を行う。 ・週に1度、スマイルトークタイムを実施し、自分の考えを誰とも気楽に話すことができる友達関係をつくる。 上記の3点を推進することで、いじめの未然防止につなげる。	学びの基盤部 生徒指導主事	・昨年度の取組の成果として、教職員が児童を肯定する雰囲気職員全体に広がってきている。今年度も「ほめほめweek」を実施し、この雰囲気を新しい職員にも浸透させていきたい。 ・教師と児童の縦の関係性は好転してきたが、児童同士の横のつながりが薄い現状がある。児童同士が会話をする機会を増やし、誰とも気楽に話す関係をつくっていききたい。	【満足度指数】 児童が学校生活を楽しいと感じている。	児童生活アンケートで、「学校が楽しい」「どちらかといえば学校が楽しい」と回答する児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 毎月、児童にアンケートを実施する。	A	2学期末に行ったアンケートでは、「学校が楽しい」「どちらかといえば学校が楽しい」と回答する児童の割合が90.1%であった。「あなたは、クラスの誰にでも気楽に話しかけることができますか。」の項目でも、1学期89.3%から2学期90.1%にやや向上した。これは、「ほめほめweek」、「スマイルトークタイム」の取組を継続して取り組んできた結果と考えられる。しかし、学級によって活用の度合いに差がみられるため、生徒指導主事が各学級のスマイルトークタイムを見て回り、価値づけたりアドバイスをしたりして取組を促進していきたい。
③キャリア教育・進路指導	みんなの笑顔のために、働くことや責任を果たすことで、達成感を感じさせたり、仲間と協力する喜びを感じさせたりすることで、自己肯定感を高める。	係活動や委員会では、めあてをもたせ、さらにこまめに活動を振り返る場を設定することで、責任を果たすことや仲間と協力することの大切さを学ばせる。	児童会担当	前年度アンケート結果より、自ら活動等に参加できていると回答した児童の割合が多かった。委員会ごとにイベントも充実していた。課題として、他の委員会のイベントに自ら参加する児童が少なかった。	【成果指数】 みんなの笑顔のために、進んで係活動や委員会に参加する児童が増えている。	みんなの笑顔のために、それぞれの活動等に自ら参加できたと感じている児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に児童にアンケートを実施する。	B	肯定的な回答が低学年は88.1%、中・高学年は84%であり、全体としては86%だった。2学期は児童が一生懸命仕事に取り組む姿を教師側が認め、価値付ける声かけや生徒指導の「ほめほめweek」と関連付ける等、まずは教師側の児童を見とる意識を高め、児童に還元できるようにしていくという手立てをとってきたが、まだ不十分な部分が見られた。教師側の意識が途絶えないよう、さらに生徒指導と連携して児童に還元できるようにしていくとともに、児童の意見を吸い上げた児童会活動を充実させ、達成感を味わわせていきたい。
④保健管理	学校生活のあらゆる場面で姿勢を意識させ、成長期に必要な健やかな発達を促すために、正しい姿勢を心がけようとする児童を育成する。	正しい姿勢の保持について、啓発し、適宜指導を行う。また、正しい姿勢を保持するために、体幹を鍛える運動等、教育活動全体で取り組む。	保健主事	本校男子児童において、側弯症疑い及び継続観察者が増加している。また、授業中に姿勢の保持が難しい児童がいる。	【成果指数】 正しい姿勢をしようと思がけている児童が増加している。	児童アンケートで「正しい姿勢をしようと思がけている」と答える児童の割合が A 80%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に児童にアンケートを実施する。	B	肯定的な回答が、低学年は83%、中・高学年は72%であり、全体としては76%であった。よい姿勢の児童をより価値づけしていくために、2学期から表彰式を行い、掲示した。また10月からは毎週月曜日の朝自習の時間を活用し、姿勢体操に取り組み、意識して背すじを伸ばす時間を設定した。今後も全教職員で継続的に取組を続けていく。
⑤安全管理	校内外における安全教育を計画的に行い、児童自ら、自分の命を守ることができる力を育成する。	学校安全教育計画に基づいた指導や避難訓練時の指導を通して、安全に気をつけて行動する児童の意識を高める。	教頭	安全教育計画に基づいた指導や訓練を行っているが、振り返りや事後指導が不十分であり、児童の意識の浸透について把握できていない。	【成果指標】 自分で自分の命を守ることができる力がついてきたと実感している児童が増えている。	児童アンケートで、「安全指導や訓練を通して、自分で自分の命を守る行動ができて」と答える児童の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に児童にアンケートを実施する。	A	A, B合わせて肯定的な回答が95%であり、学校全体として下校訓練や避難訓練を通じて自分の命を守る行動ができてと感じている。2学期の避難訓練が学級閉鎖等できなかったため、3学期に火災の避難訓練を行う予定である。
⑥特別支援教育	児童一人一人のニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服して児童が笑顔になるために適切な指導や必要な支援を行う。	児童のクロスマインドセットを高めるために、UDLを意識した授業を行うとともに、支援を要する児童の困り感に応じた指導を工夫する。ICTを活用したUDLを進める。	特別支援教育 コーディネーター	児童の困り感を早期に捉え、気づき票から実態把握している。支援委員会を開き、方針の決定・共通理解をしてきた。担任は学期ごとに計画評価し、支援に取り組んできている。	【満足度指標】 困り感のある児童も含めて児童が「やればできると思うことが増えた」と感じている。	UDLの実践、困り感のある児童への特性に応じた支援計画と改善により児童アンケートで「やればできると思うことが増えた」と答えた児童の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に児童アンケートを実施する。	A	AとBを合わせた肯定的な回答は88%であった。困り感のある児童の把握と計画的な支援を行ってきたことで達成には至っていた。しかし中間評価と比べるとA回答は10%減少、C回答が7%増加となっている。学習につまづきを感じている児童の見取りと理解の状況に応じたきめ細かな支援がより重要になってくる。小さな達成を認める声掛けや励まし等により、「やればできると思うこと」への自覚化を図りたい。また、マイプラン学習においては、児童一人一人が自分の達成目標を決めたり学び方を自己決定したりする場面の効果的な支援について、教務や研究と連携を図っていききたい。
⑦組織運営・業務改善	教職員が笑顔で子ども向き合い、教材研究や研修の時間を確保し、自ら考え協働できる自律した学びを育成することに注力することができる学校づくりを目指す。	主任層と連携し、チームとして組織化・協働化された学校運営を行い、仕事の平準化、業務の削減を図り、教材研究や研修の時間を確保し、教職員が笑顔で子ども向き合う時間を増やす。	教頭	主任層が連携し、チームとして組織化・協働化することの大切さや、仕事の平準化、業務の削減など意識している職員が増えている。	【満足度指標】 自ら考え協働できる自律した学びを育成するため、教職員が教材研究や研修の時間を確保できていると感じている。	教材研究や研修の時間を確保できていると感じている職員が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	B	A, B合わせて肯定的な回答は84%であった。2学期は意識改革をはじめいろいろな取り組みを行ったが、アンケート結果からは十分な時間の確保ができていない現状であることが分かる。来年度はカリキュラムを根本から見直し、教職員が研修や教材研究の時間を確実に確保できる体制づくり、自ら考え協働できる自律した学びを育成していく。
⑧研究	自律した学び手の育成に向けて、自己調整力を高めた「ふり返り」を書かせるための効果的な手立てを検討する。	・研究全体会を定期的に開き、各教諭の実践を交流する中で、より良い実践を研究していく。 ・研究主任を中心に実践を共有していくことで、学校全体で研究を推進していく風土を醸成していく。	授業づくり・学力向上部 研究主任 若プロ担当	子どもに委ねる時間が授業の中で増えてきている。だが「自分の考えや思いを発表したり、文字で書いたりして表現できましたか」という児童アンケートでは、肯定的な回答をしている児童数が11項目で最も少なかった(81%)。	【努力指標】 研究全体会、整理会などで話し合われたことを共通理解し、研究主題達成に向けよりよい実践に取り組んでいる。	共通理解のもと授業改善に取り組んだと感じている職員が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	B	肯定的な回答が84.6%であった(回答者数13名)。研究主題達成に向けて、学校全体で研究を推進していく動きが生まれてきたと言える。研究主任から提案した各種の取り組みに対し、学校全体で一枚岩となって推進してきた。継続的かつ確かな実践の繰り返しによって、職員一人一人の意識が向上してきた結果だと考えられる。改善策の1つとして、現状の分析を行う。1月の「ふり返り分析」、スマイルアンケートの分析、ScTMの分析等を活用しながら、本校児童の現状について職員全体で共有する。そのうえで次年度を視野に入れながら、3学期に打つべき手立てについて職員一人一人が当事者意識をもって授業改善していけるようにしたい。
⑨保護者、地域との連携	PTA行事や錦城キッズフェスタを通して、家庭・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを目指す。	計画的に地域・保護者と連携を図りながら、PTA行事や錦城キッズフェスタを行う。	教頭	地域・保護者と連携を図りながら、PTA行事や錦城キッズフェスタを計画する。	【満足度指標】 PTA活動や錦城キッズフェスタ等を通して、開かれた学校となり、家庭・地域と連携している。	保護者アンケートで、「PTA行事や錦城キッズフェスタを通して、学校・家庭・地域と連携を図ることができている」と回答した保護者の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に保護者アンケートを実施する。	A	A,B合わせて肯定的な回答は91%であった。2学期は「愛校作業」「錦城キッズフェスタ」「錦城っ子応援隊」などの活動を通して、学校と地域保護者が学校生活以外でつながる場を設定してきた。今後も意図的に学校への親しみや関心を高められるような企画・運営を行っていく。
⑩教育環境整備	学習に必要な教材や学習環境の整備を図る。	職員作業を通して学習環境・教材整備に努める。	総務部 予算委員会	教材・教具の使い方や整理が不十分な状況が見られる。	【満足度指標】 教材や教具の管理や整理整頓がされている。	教職員アンケートで、「教材・教具の管理と環境整備に努める」ができた。と回答した割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A,B合わせて100%だった。2学期は子どもも教職員も「スマイル4S」に取り組むことができた。1s(整理:必要なものと不要なものに分けて、不要なものを処分する)2s(整頓:必要な時に必要なものをすくりに取り出せるように配置する)3s(清掃:身の回りをきれいにしてゴミや汚れを取り除く)4s(清潔:整理、整頓、清掃を繰り返し、快適な状態を維持する)。単なる環境整備にとどまるのではなく、環境を整えることが「よりよいコミュニケーション」につながり、自分も人も心から笑顔になれる学校をみんなで創ることにつながることを共通理解し、来年度につなげていきたい。

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の評価が「努力指数」や「満足度指数」にようものが多い。より、成果と課題を具体的なものとしてとらえるため、来年度は「成果指数」で具体的に評価することが必要。 ・保護者、地域との連携では、PTA活動に加え園工や家庭、生活科などの学習支援にも多数の保護者に参加いただき大変ありがたかった。来年度は、総合的な学習の時間においても保護者の方へ学習支援を呼びかけ、子供の「好き」を育み、「得意」を伸ばしていけるよう取り組んでいく。 ・大聖寺は歴史ある町であるので、子どもたちに大聖寺のよさを味わわせ、自分の町に対する愛情を育ててほしい。
---------	--